



■ご挨拶「会長：菅沼 喜久次」

新年明けましておめでとうございます。ご家族お揃いで良き新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

JVCシニアクラブの結成以来、満10年の活動実績については、会員各位からの深いご理解とご協力の賜物として、厚く感謝し御礼申し上げます。

永きに亘るデフレの継続で経済の停滞、景気の低迷・厳しい雇用環境、東日本震災の復旧復興の遅れ、東京電力福島原発事故を契機とした、原発のありようとエネルギー問題、領土問題を中心とした外交、1000兆円を超える国の債務、消費税の増税と社会保障の一体改革、等々難問山積の我が国は、これらの諸課題にどう対処していくのでしょうか。

昨年末の総選挙の結果は、皆様方ご承知の通り、自民党の圧勝と民主党の壊滅的大敗となりました。第三極といわれる「にわか新党」の出現による離合集散が行われ、12もの政党の乱立で、有権者にとって選択を困難にさせたことは否めません。投票率が60%を下回るという、戦後最低になったのも、このような多党化のなかでの選挙で領けるものでしょう。

大勝した自民党は公明党との連立で、安倍内閣を発足させ自公政権がスタートしました。自公合わせた議席数は325と、絶対安定多数で衆議院の2/3 を擁することになります。

今回の選挙に当たっての自民党の数ある公約の中で、直接私たち高齢者にとっての重要な課題は、言うまでもなく年金・医療・介護の問題です。

先の国会に於ける「民自公三党合意」による税と社会保障の一体改革の合意事項を尊重し、「社会保障改革国民会議」で従来からの主張を後退させないよう、高退連を通じ民主党に強く主張していかなければなりません。

自民党の社会保障に対する政権公約では「自助・自立を第一に」としています。この姿勢を数の力で強引に押し付けられない様、しっかり監視をしていかなければなりません。

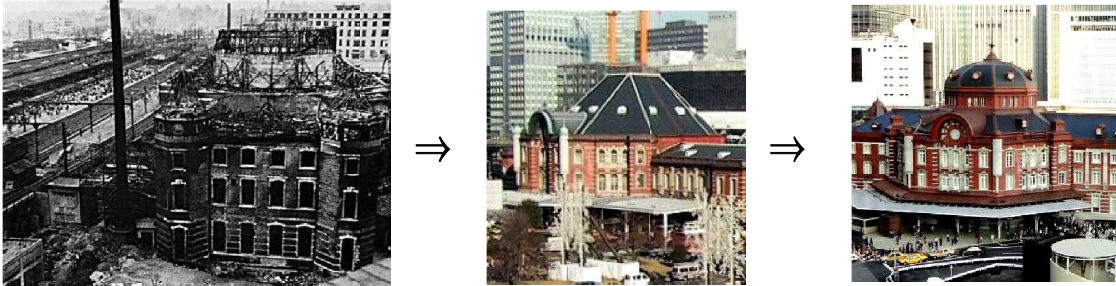
民主党も今回の選挙結果を踏まえて、「政権交代」をうたった前回選挙のマニフェストを改めて再点検し、健全な野党連合の中心的存在となって、国民の政治に対する信頼の回復と生活の安定・向上を目指した取り組みをしていかなければなりません。

このような取り組み結果は、今夏に予定される参議院選挙でまず示されるはずです。

本年も旧に倍するご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■東京駅

昨年10月に、東京駅の修復工事が完成して、1914年(大正3年)建築当時の形に復元されました。ドーム型をした東京駅は戦災で焼け落ち、台形状に造り替えられた屋根が、今回の修復で元の形に戻りました。日本の鉄道起点駅として、歴史の風格を感じさせる形に戻ったようです。巻頭の全景写真は新丸ビル7階テラスから撮りました。



■トピックス「ジニ係数」

所得分配の不平等さや、富の偏在性などを測る値としてジニ係数があります。値は0から1の間で、これを一つの国の中に当てはめると、0に近いほど国民の所得は均一で格差が少なく、1になると1人がすべての富を得ていることを意味します。

この数値が大きくなると国民の不公平感が高まって、社会騒乱などの問題が多発する恐れがあり、その警戒ラインは、0.4 と言われています。

日本全体が総中流と言われた1980年代の値は0.265でした。これが、90年:0.295、2000年:0.314、2010年:0.336 (OECD 調査ほか)と徐々に値が高くなってきています。

所得格差が広がれば値は単純に増加しますが、税と社会保障の充実によってこの数値を改善することができます。例えば、ある産油国のように王族が富を独占しても、教育、医療、子育てなど、国民の生活上の負担が軽減されれば、実質のジニ係数は下がってきます。

安倍政権は2%のインフレターゲットを掲げました。物価上昇に見合った所得の上昇が絶対条件ですが、所得格差は今後も広がる可能性が大了。税と社会保障の一体改革によって、国民の不公平感を払拭するべく努めてもらわなければなりません。

■事務局から

(1) 11月9日(金)スカイツリー見学会(2回目)が開催されました。

家族友人を誘い合わせて総勢88名。写真のように後ろの人は顔も出せないほどの賑わいでした。



当日は、展望台から太陽が富士山頂に沈む“ダイヤモンド富士”が見られるはずだったのですが、皮肉なことに富士山の方向にのみ雲があつて、見ることはできませんでした。予約から半年も待ったのに残念！

(2) 2月16日(土)の新春交流会の案内文書を同封しました。参加希望者はお早めにお申し込みください。今年もまた、お互いの交流と親睦を深めていきましょう。

本年もよろしく願いいたします。 事務局長 田代 周